

第3回 函館市都市計画マスタープラン市民懇話会 会議録

日 時 : 令和6年08月27日(火) 18:30~20:30

場 所 : 函館市役所 8階第2会議室

出席者 : 委員(7名)

仙石委員, 三橋委員, 辻委員, 阿知波委員, 渡部委員, 高澤委員, 堀田委員
事務局

小畑都市計画課長, 上田主査, 関主査, 茶野主査, 溪本技師, 梅村技師, 大柳主事

傍聴者 : 一般傍聴者2名

議 事

○都市計画課 上田主査

本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第3回函館市都市計画マスタープラン市民懇話会を開会いたします。

座長の奥平座長なんですけれども、本日急用でご欠席ということで、進行を仙石副座長にお願いしたいと思います。

○副座長 仙石委員

はい。わかりました。

○都市計画課 上田主査

では、仙石副座長よろしくお願いたします。

○副座長 仙石委員

はい。よろしくお願いたします。

まず始めに、出席委員の確認をしたいというふうに思います。

今日、小森谷委員からはちょっと遅れるということと奥平さんがご欠席ということですので、私が代理で務めさせていただきます。皆様のご協力を持ちまして円滑に進めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

はい、次に今回予定されている議論に入っていたく前に、前回、第2回懇話会の会議録を確認して参りたいというふうに思います。

皆様のお手元に事務局が作成しました会議録が配布され、事前に見ていただけましたでしょうか。こちらですね。修正点等ありますでしょうか、何か。メールでも回っていったと思うんですけども。特にないですかね。

○各委員

異議なし

○副座長 仙石委員

そうしましたら修正点がないようですので、案のとおり確定したいと思います。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

では、以上のとおり第2回懇話会の会議録は修正しないことといたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、第2回懇話会にて会議録の修正に関わる部分につきましては会議録を修正しない、作成しないことと決定いたしました。

○副座長 仙石委員

それでは、お手元に配布してございます会議次第に沿って順次進めて参ります。よろしくお願

いたします。

前回の第2回市民懇話会では、人口減少に対応したまちのかたちというテーマに基づいて、委員の皆様にご議論いただきました。さて、本日の議論につきましては、「誰もが暮らしやすいまちのすがた(ソーシャルインクルージョンのまちづくり)」ということで、よろしくお願ひいたします。函館市における暮らしやすさについて皆様にご議論賜りたく存じます。

では、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○都市計画課 上田主査

それでは、委員の皆様事前に配布しております資料についてご説明させていただきます。この資料と同じものはスクリーンの方にも映しておりますので、そちらもご覧ください。

今回は第3回で「誰もが暮らしやすいまちのすがた」というテーマで始めさせていただきます。「誰もが暮らしやすいまちのすがた」なんですけれども、大きく2つの議題を掲げておりまして、1つ目が「多様な人々、誰もが暮らしやすいまちのすがたとは」、もう1つが「地域コミュニティの形成」。ソーシャルインクルージョンなんですけど、資料の方にも説明書きを書かせていただいたんですけど、「社会的包摂」と訳され、社会的に全ての人を包み込み、誰も排除されることなく、全員が社会に参画する機会を持つまちづくり、「子ども・高齢者・障がい者・外国人・性的少数派等すべての立場の人が社会の一員として包み支え合うこと」としてあります。もう少し言いますと、子育て世代ですとか高齢者、障がいを持つ方々など、地域に暮らすあらゆる人が共に生きていくという理念の基に多様な価値観や社会の変化を包摂するというまちづくりでございます。

資料の中身の方に入っていきます。

まず1つ目が、子育て施設と小中学校についてプロットさせていただいております。子育て施設・小中学校ともに、市街化区域内には多く集中しております。

一方で、東部地区にも一定程度の施設立地は見られるんですけども、小中学校の統廃合等が進み、現在の状況になってございます。

次に、商業施設・身近な公園施設でございます。

商業施設は市街化区域内に集中しておりまして、徒歩圏の範囲はほぼ網羅されております。

東部地区は都市計画区域外ではあるものの、住民の居住エリア内に少数ではありますが商業施設が立地してございます。

「地区公園、近隣公園、街区公園」施設の多くが市街化区域内に配置されておりまして、徒歩圏の範囲はほぼ網羅されております。

東部地区は都市計画公園ではないものの、公園施設が配置されております。

次に娯楽施設です。

ショッピングモール、昭和タウンプラザ・ポールスター・フレスポ戸倉、アミューズメント施設、テキサスですとかラウンドワンにつきましては市街化区域内のみに立地しております。

その他にパチンコ店は東部地区で立地しているんですけども、カラオケ店ですとかショッピング施設等はありません。

次に医療施設・高齢者介護施設でございます。

医療施設も同様に、市街化区域を中心に立地しております。

高齢者介護施設も同様の傾向が見られますが、市街化区域以外の都市計画区域にも立地が見られます。高齢者や障がい者等広く支援している「地域包括支援センター」は市街化区域内に加えて、東部の南茅部地区・戸井地区に立地しております。

東部地区では住民の居住エリア内に、医療施設や高齢者施設が立地しております。

続きまして、地域コミュニティの形成についてですけども、家族構成の変化といたしまして、少

子高齢化・人口減少社会の中で、1人暮らし世帯が増加傾向になっております。2人暮らし世帯は平成22年まで増加傾向でありましたが、以降は緩やかな減少傾向で、3人以上の世帯は平成7年以降減少が続いております。

家族構成につきましても夫婦どちらかの就業が減少しておりまして、共働き世帯が増加しております。

世帯の小規模化や夫婦の共働きによりまして地域のコミュニティが衰退していることが考えられます。

地域コミュニティ施設でございます。

函館市における社会教育施設、まちづくりセンターやコミュニティ施設は函館市全域に立地しております。

これまでの施設では東部地区に立地されている施設が少ない傾向が見られましたが、地域コミュニティ施設は函館市全域に広がっております。

市街化区域内では、都市活動軸の各拠点に集積しております。

続きまして、昨年度行いました都市計画マスタープラン見直しのための市民アンケートから抜粋しております。地域住民のまちづくり参加意識についてでございます。

地域のまちづくりに「関心あり」が48.6%、「関心なし」が51.4%となっております。一方で、情報提供は必要と答えた「消極的な関心」を含めると全体の92.0%がまちづくりへの関心を示しているということになります。

地域まちづくりへの参加方法といたしまして、「イベント参加」が60.7%と最も多く、地域イベントは住民同士の交流を促進する重要な要素となっております。

最後に参考資料といたしまして、現行の都市計画マスタープランに掲載しておりますコンパクトなまちづくりの方針図を示しております。

現行都市計画マスタープランでは、「人口減少」および「高齢化の進行」を踏まえまして、市街地の拡大抑制を目指し、各拠点ごとの役割を示してございます。

説明については以上でございます。

○副座長 仙石委員

はい、ありがとうございました。

ただ今事務局の方からご説明がございましたが、何かご意見やご質問等があればこの場で語りたいと存じますが、いかがでしょうか。

今日のテーマは私もまちづくりの意識とかそういう話が出てきたので、今日皆さんから色々吸収して帰りたいなというふうに思いますので、たくさん議論をしていきたいなというふうに思います。

何かありますか。どうですか。若い人から、普段ボランティアとかやってる高澤さんどうですか。

○高澤委員

質問ですか。

○副座長 仙石委員

今聞いた感想でも良いんですけど。

○高澤委員

まちづくりという観点で色々学生団体の中でも活動している理由は幅広いと思うので、今日その部分でお話出来たらなと思って楽しみにしております。よろしくをお願いします。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。特に質問とかなければ私の方から色々話題振っていききたいなと思いますが、よろしいですか。ありがとうございます。

今回、「多様な人々、誰もが暮らしやすいまちのすがた」ということですが、最初にスライドにもありましたけれども、子育てとか、子ども、若者が暮らしやすいまちとはっていうことを書いていたと思うんですけど、どうでしょう皆さん、暮らしやすさに、自分の観点で良いんですけど、求めるものって、どうやったら暮らしやすいかなという、感じられますか。住宅の立場からでも結構なんですけど。辻委員どうでしょうか。

○辻委員

暮らしやすさは多分世代・年代ごとに変わると思うので、この前の第2回の懇話会の時に出てたとおり、世代によって求められる暮らしやすさ、例えばこの前お話しした中で言うと小中学校とか、あと商業施設とかは今回でてきてると思うんですけど、ある程度、どの話になるのかはあれなんですけど、ある程度ここに行けば何があるというのがある程度まとまっていた方が暮らしやすさも感じやすいのかなとは思いますが。うちの会社にも結構こっちの地元じゃない人っていうのを採用してるんですけど、とりあえずどこに行ったら良いんですかとかが何があるんですかというよりはとりあえずどこに行ったら良いんですかっていうのをよく聞かれることがあるので、そういう地域によって特色を持たせた地区というか、そういうものがあると暮らしやすさは感じやすいんじゃないかなとは思いますが。住宅とかの立場でいくとやっぱり暮らしやすさがある程度まとまって、特に商業地域系ですね。その辺りに住みたいと言われる方が希望が多いっていうのが実際の現状ですね。以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

採用されてるのもなんか地元の方じゃなくて外から U ターンとか移住とかされた方ということですか。

○辻委員

どちらかと言えばそうですね。移住、U ターンの人の中にはいますし、あとは単純に函館に魅力

を感じた、もしくは何かゆかりがある人というのが多いですね。

○副座長 仙石委員

なんかこうここに行けば何か、まとまりがあるといいというふうに仰ったんですけど、他の方具体的に例えばこれは娯楽施設って話もあって、何か他に暮らしやすさに求めるもの、ご意見ある方いらっしゃいますか。お願いします。

○渡部委員

僕の家近くにですね、お陰様でスーパーがございまして、非常に生活してる上では助かってます。ちょっとそれを考えてみますと、生活インフラがやっぱり非常に大事なんだなと思うところで、スーパーだったり商業施設、今仰ったような施設ですね。あとは飲食店、こういったものも、あることについては非常に生活する上では大事なことなんだなというふうに思います。

私の職業柄で言いますと、交通なんですけれども、よく言われるのはバスの便が少なくなったというお話をされています。これやはり交通がですね、交通機関がしっかりと充実をしているということで、あとは移動がスムーズに出来るんだというこの交通が非常に大事なポイントなんだろなと思いますし。またちょっと考えてみますと、あとはもう、まちが安全でなければならぬというふうにも思います。犯罪が少なくてですね、無い方がもちろん良いんですけども、治安が良いと。

さらに災害もですね、対策がきちんと講じられているということが非常に住みやすくて良いところなんだろなと。

あとは、今日阿知波さんもいらっしゃいますけれども、介護の方もですね、そういったものの施設があるということが非常に住みやすさに繋がるんだろなというふうに思います。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

やはり生活インフラが整っているとか、プラスアルファで暮らしを豊かにするようなものがあるといいと。スーパーが近いのはやはり暮らしやすいですね。

今度はじゃあ若者が暮らしやすいまちっていうことも書いてあるので、お2人順番にお願いしていいですか。

○堀田委員

ありがとうございます。

そうですね、私が暮らしやすさで意識するというか、最近ちょっと考えることがあって、祖父母の実家が花園町の方にありまして、祖父母の家があったんですけど、あのエリアって多分家を建てた数十年前はスーパーも魚長があったりですとか、昔生協もあったと伺っていて、祖母は車を持ってなかったんですけど、自転車でもどこにでも買い物に行って生活がそのエリアで完結することが出来た地域だったと聞いてるんですけど、結局10年20年30年経つとあのエリアって魚長も無くなってしまったり、商業施設も無くなってしまったりで、高齢者が暮らしにくくなってしまったエリアになっています。でプラス、そういった形でそのエリアが衰退したことによって若い人もそちらに移住しなくなって、どんどんとエリアとしてちょっと元気が無くなっていったような印象をすごく受けました。でやっぱり自分もどこの場所に永住して、じゃあどこに家を建てるって考えた時にその状況を見ると30年後この地域って果たしてこのまま元気なんでしょうかみたいなことを考えるようになっていて、なのでそういった時に今は元気がある地域だとしても未来がそのままの状況なのかどうかっていうところにすごく不安を抱えるんじゃないかと思っているので、それはどうやっていけばいいかってことは無いんですけど、その地域を継続的に持続的にずっと元気良く暮らしを、暮らしやすくさせていく工夫っていうのをやっぱり外部から何かしらの力を入れてかないとどんどんどんどん下がってってしまうので、そういう未来に自分が住んでいく上でずっとここに住

んで生涯終わられるっていうビジョンが見えるようなところを提示出来るとそういうエリアに永住者も増えるでしょうし、移住者も増えるんじゃないかなというふうに感じます。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

花園町なんですね、あそこも穏やかな空気感で良いですよ。商店街とかもね、ありますけど。ちょっと元気がないのかなというふうにお感じだったことですもんね。

○堀田委員

小さい頃はもっと活気があったなというふうですごく感じます。

○副座長 仙石委員

そうですね。僕も小さい頃、そういう雰囲気、行ったことがあるので、そういうイメージがあるということですけど。

ありがとうございます。では高澤委員かな。

○高澤委員

暮らしやすいまちということで、ぱって思いついたのがやっぱり函館に来て雪が結構冬悩まされるなっていうことがあります。夏とか春の間であれば多少近くにスーパーとかそういう施設が無くとも自転車で行けるかな。学生なのでみんながみんな車を持ってないものの公共交通機関を使って何とか生活は出来るし、あまり不便っていうこともあまり感じない一方で、坂が多いからこの坂を自転車で上るかってなった時にちょっとしんどいなって感じちゃう時があったりとか、あと雪の際にはやっぱり交通機関、結構時間通りに来ることが難しくなってくる中で、どう生活していくかっていう部分ではすごい悩まされる部分があるなって思っています。

あと日常に関してですけど、誰かと友達に休日カフェ行ったりだとか、一緒に勉強する場所っていう部分がまち中にあるっていうことはすごい学生の日常を形作っている施設としてすごい助けられている部分もあるので、そういう施設であったり、みんな、友達同士で思い出を作れる場所であったり、そういう部分がまちづくりの部分で大事なことなのかなって感じてました。以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

私も今年で42になって、学生時代からまちに飛び出して色々活動していたんですけども、まちの人達が本当に若い人達を受け入れてそれを歓迎してますよね。そういうのは大事にしていきたいなって思いますし、学生たちの活動しやすい土壌がこの10年20年で確立されてきたなというふうにして、それはまちとしては意識していかなきゃならないかなというふうに思います。

じゃあ阿知波委員どうでしょうか。

○阿知波委員

今日のテーマの「誰もが暮らしやすいまちのすがた」というところで言いますと、ちょっと限定になっちゃうかもしれないですけど、思ったのが資料を見て、公園の大事さというか、公園、函館市さんの方で、整備していただいて色々あると思うんですけども、特に子育て世代の人とかなんかは、土日とかになると子ども達をどっか連れてくとかかなり非常に、実体験なんですけど、公園ってすごい助かるって言ったら変なんですけれども、公園とかがあると、整備されてたりするとそういう子育ての世代の人達は助かるでしょうし、あと子育て世代だけじゃなくてもそういういろんな人が集える公園とか、あと雨の日とかも困るんですけど駅前にある子育ての。

○副座長 仙石委員

そうですね、みらい館とか。キッズプラザがありますね。

○阿知波委員

整備されてたりすると、すごい子育て世代の人達は助かるのかなと同時に、ちょっと飛んじゃうかもしれないですけども、以前、任意団体さんの方でインクルージョン未来推進機構さんとかっていう方々が公園で障がいを持った方とか誰でも使える遊具をイベント的にやったっていうのを函館市の方とか何か分かんないですけど、面白いのやった様なんで、そういうのを普段から誰でも使える遊具とかそういうのを整備したりだとかするとより誰もが住みやすいまちになるのかなっていう、ちょっと漠然とした話なんですけど。併せて、私どもの団体からすると、なかなか難しいところあるんですけども、これも誰でも集まれるような居場所というか、そういうものをサロンのなものを作ってって、みんなが、今、先程の資料でもありましたけども、一人暮らしの方が増えたりとかして、孤立、孤独とか、地域福祉の関係で話題になってますけれども、そういう人が集まれるような場所、サロン作り、そういう人の運営も手伝ってくれるボランティアさんとか、そういう人と繋がって行って、少しでも暮らしやすいまちの視点というかモデルっていうのがちょっと僕達側のサイドから思ったことを、まとまりないんですけど。

○副座長 仙石委員

たくさん熱い思いがあるんだなというふうに思います。地域でコミュニティ施設ってことだったりとか公園っていう話がでてたので、子ども達がね、のびのびと遊べる場所を作るとか、地域で一丸となって子ども達を育てていくっていうマインドが必要なのかなっていうふうに話を聞いてて思いました。

ありがとうございます。続いて三橋委員お願いいたします。

○三橋委員

私の方からはもう少しコアな話というかですね、話をしたいと思います。

最初にテーマを見た時に「誰もが暮らしやすいまちのすがた」ということで書いてあったんですけど、私の方で言う、建築的に言うと誰もが住みやすい建築形態というバリアフリーっていうのがあるんですけど。誰もが生活しやすい建築をして使いやすい建物を目指しましょうっていう法律があるんですが、それに近いのかなっていうふうに、自分的にコアなんです。今日お話したかったのは、1つ非常にコアな話かもしれませんが、トイレの話ですね。トイレの方、障がい者ではないんですが、高齢の方だとか、うちの身内だとかにも結構車椅子使った方がいらっしゃいます。そうした時にですね、本人は出掛けたい、ところがいざ出掛けようとするとうトイレの問題だったり、建物の問題だったり、もあるんですが、一番大きいのはやっぱりトイレの問題で、折角身内の家族と食事をしたいと思っても行けるところがこの函館市の中で本当に少ないですね。ただ食事だけ行くんだったら多分行けることは行けるんです。今エレベーター作ったりとかして、行けるんですけど、やっぱり聞くとですね、トイレが不安だと行けないっていう話なんです。これをもう少しこれは公共施設の公衆トイレだとかそういうところは普通に多目的トイレとかたくさんあるんですが、もうちょっとですね、飲食店とかそういう商業施設、それから人が集まる施設、特に食事が出るような施設にはぜひぜひ作っていただければなと。

同じくですね、宿も同じようなことなんです。うちの身内でもですね、例えばちょっと車椅子乗ってだけけど宿泊したいと、どっかに泊まりたいって。函館市内で調べたんですが、実質泊まれるのは函館で1件ぐらいだったんですね。他はもう全然ないです。こだけ函館に旅館がありながら。意外と全然ないんですね。乙部の方まで行っちゃうと、またそういう施設もあるんですが、それはそれとして、函館市内、この観光地でありながらこれだけ障がい者と言ったらあれかもしれませんが、高齢者だとか、そういう人方の受け入れ態勢。簡単に言うとトイレ1つやっぱり作ってあげて、宿泊施設ももしそういう方々が利用しやすい施設が出来る、もしかしたら将来的に、ちょっと話

がずれちゃうかもしれませんが、リピーターになって、また函館に来たいなっていう、函館の活性化にも少し繋がるのかなっていう、そこまで行かなくても函館市民が、あそこに行けばトイレ使えるから食事出来るかなってなるとまち中でも段々高齢者多くなってくるとそういう方も多いと思うんですね。先程言った阿知波さんの話じゃないですけど、孤独になってどんどん部屋にいるっていうのから抜け出すことも出来るだろうし、そういうことを機会を作っていたいただければなど。こういうまちづくりが出来ればなというふうに思っていました。以上です。

○副座長 仙石委員

はい、ありがとうございます。

誰もが暮らしやすいまちと。トイレって結構重要ですね。結構トイレって常時もそうなんですけど、災害時とかも結構大事で結構言われるんですけど、食事の前に必ずみんなトイレ行くんです。災害起こった時。3時間以内ですね。食事って1日とか我慢出来るんですけども、トイレは絶対6時間経ったら行くんですって。なので、特に障がいを持った方だったら、本当にえらいこっちゃになってるらしくて、昨日か一昨日かな、丁度、災害時の講演聞くことがあって、それで聞いてたんですけど、結構まだ函館市がまだそんな整備されてないっていうふうに災害時のトイレが準備とかもされてない。加えて、障がいを持った方に対する配慮が出来てるところも少ない。障がいの話し合い後ほどもするんですけど、今年から障害者差別解消法の法律も変わって、合理的配慮って言葉が増えたりとかしている中で、これから函館の方だと、みなさんで地域一丸となってどうしていかっていくことがあるのかなっていうふうに思います。

その流れで、障がい者が暮らしやすいまちってじゃあどうだろうかっていうのを、じゃあ三橋委員からもうちょっと突っ込んでお話してもらっても大丈夫ですか。

○三橋委員

障がい者と言ってしまうと言葉はきついと思うんですね。なので、要は私もそうなんですけど、人はみんな歳を取っていくと。段々やっぱり体力的に、前までは走れたのが走れなかったり、つまずいたり、そういう生活にどんどん皆さんなっていくんですね。函館の人口、函館だけじゃないですけど、日本的にもみんなどんどん高齢化して行って、昔と違って60歳で仕事を辞めるって時代ではないですけども。とは言いながらも、やっぱり体力は、皆さん40歳よりも50歳、まだ若い人にはまだわからないかもしれませんが、10年違うとこんだけ体力違うのかっていうくらい落ちていくんですね、そういうための人方のために少し特化してというのがですね、それをキーポイントとしてまちづくりっていうのを意外とやっているとかが無いように思えるんですね。そういうことを函館市の公的な部分から始めて行って、うちのまちはこういうことを中心にやっていますよ、だからこそこれから増える高齢者、若しくはそういう体に少し障がいのある方でも生活出来る、だから活気があるんだよというふうになっていけるまちづくりをしていければなど。そのことが、例えば先程、私が言ったトイレの拡充とか。これは意外と皆さん何度も言うようですが、施設には必ず多目的トイレってあるはあるんですが、なかなかそれっていうのは意外と集会施設とかそういうところだけで、意外と飲食店はないんですね。本当に。そこら辺が本当先程言ったように、食べ物食べたら、出すものは出すわけですから、そういうところから逆に条令が何か分からないですけども、そんなことから関わっていくといろんな意味で活性化になるんじゃないかなというふうに思います。意外と建築やっているとトイレっていうのは作り方が悩ましいところで、お金もかかる場所ですし、考えていると色んなこの位置が良いとか、動線も考えたりだとか、考える。意外と要なんですね。そういうところをやっていくとこれから増える高齢者だとかに対しても優しいまちづくりになるだろうし、それをやることによって逆に言うとみんな、皆さんが誰でも使いやすいまちになっていくんじゃないかなと思いますので。1つの方法としてどうかと思いますけども。

○副座長 仙石委員

はい、ありがとうございます。

私が運営してるまちづくりセンターの方には、誰でもトイレがあって、ストーマもちゃんと付いているんですね。確かに飲食店は少ないかも。あまり見ないですよ。例えばそういったところに公的機関が、設置する飲食店に対しては助成するとかってというような具体的にちょっと今ジャストアイデアで言ってるんですけど、そういったことも誰もが暮らしやすい障がいを持った方でも暮らしやすいまちになるのかなっていうふうに思います。

じゃあどうでしょう。他の方、障がい者が暮らしやすいまちって同じ建築の立場からでも良いんですけど。

○辻委員

今、仙石さんから言われた障がい者が暮らしやすいまちってものを、聞いてていろんなことを思って、何かに特化しすぎると、もしかしたらなんですけど要素として足りないのかなってというのが聞いてて思ったんですよ。例えば、先程言った公園とか、うちで言う一番最初に言った商業施設に近いとか、それだけだとやっぱり魅力が先程言った30年先がとかっていう魅力が薄れやすくなる。要はその要素が恒久的なものではないからって話だと思うんですけど、例えばまあ、障がい者さんの方が住みやすいまち、まちっていか住みやすいポイントを押さえてたり、逆に言うと、若者が住みやすいとか住みやすいと思うポイントが押さえられてるところ、複数の要素が押さえられてるまちをいかに作るかっていうところが大事なのかなと。質問の答えにはなってないんですけど。というのを聞いてて今思いました。もちろん先程のトイレもそうですし、バリアフリーももちろんそうです。建物とかももちろん今までの古い建物っていうのは段差がすごく大きくて、通常の、健常者の方が結構困難な段差っていうのがやっぱりあるんですよ。なのでその辺りを改善するだけでもすごく変わると思いますし、逆に言うと、それをものとしめないとか、そういう方達にわざわざそういう試練のようなものは作るわけにはいかないんですけど、逆にそこはそこで割り切ったもの、そこはそこで割り切ったものっていうのを考えるのも今のお話を聞いてる中では気になった部分だなと思いました。これから高齢者の方が増えるから、じゃあ高齢者に向けたまちづくりをしようっていうのも1つだとは思いますが、じゃあ高齢者の方だけが、だけがってことにはもちろんならないとは思いますが、みんなが住みやすいところの部分を作っていくっていうのが大事なポイント。そこを忘れてしまうとどこかだけどこかだけっていうふうな、視点になりやすいのかなというふうに思ったので、みんなが暮らしやすい、じゃあどんなことだって言ったらいろんな要素を組み合わせるっていうのが1つのキーポイントなのかなと私は思いました。以上です。

○副座長 仙石委員

はい、ありがとうございます。

逆に特化してしまうと、その先、環境とか人口ががつつり減った時とかにちょっと対応出来ないとかってこともあるので、議論が必要だよって話ですね。ありがとうございます。

他に、障がい者或いは高齢者ですね、に暮らしやすいまちっていうのがどなたかご意見ある方いらっしゃいますか。じゃあ阿知波さん。

○阿知波委員

すみません、関連して同じようなことになるかもしれないですけども、高齢者の方とか障がいをお持ちの方とかに優しいまちっていうのは、健常者の方にとっても優しいまちで、もっと言っちゃうとみんなに優しいまちってなにかなっていうことの、さっきの話の特化じゃなくて、そういう視点を持ちつつ、やるのが良いのかなと。すみません、答えはでないんですけど、思った。

○副座長 仙石委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

結構深い話で、どこに集中したら良いかってというのは結構難しいところがあるんですけども。

若者の視点でも良いですし、どうですかね。

○渡部委員

交通で言いますと今阿知波委員が仰ったようにですね、皆さんに優しいということで、交通にもバリアフリー法っていうものがございまして、ノンステップのバス、車いすを乗せるスロープ付きを導入しなさいっていう国の基準がございまして。今、函館バスにおいては、かなりの台数を入れておりますけれども、そういった交通の面でも高齢者や障がい者の皆様にやさしい、または健常の方にも段差が無くてスムーズに乗り降りが出来るということで乗車ストレスの無いバスになって来てます。また、ですね、その他に、色々、お話しもございましたが、自然環境も今こんな風にどんどん変わり始めておりますので、そういった中で、防災体制の方もきちんと対策が整っているというようなことが非常に大切で、僕としてもぜひ、そういったものも、進んでやっていただけないかなあと思っています。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

バスの方でもノンステップバスって増えてきていると思います。ありがとうございます。

じゃあ次の話題にいきたいというふうに思うんですけども、色々今子育て世代とか、小さい子ども達、若い人達、高齢者、障がい者、様々ないろんな多様な人達が世の中において、みんなが暮らしやすいまちっていう話をもうちょっと深めていきたいなと思うんですけど、これらは都市計画の中において住み分けが必要なのかとか或いは混在して住む方が良いのかとかその辺は皆さんの感じ方で良いんですけど、その辺を伺いたいなというふうに思います。例えば、分けて暮らすメリット・デメリットがあるし、混在して皆さん一緒になって住むメリット・デメリットもちろんあると思うんですけど、それこそトイレの問題とか。色々出てくると思うんですけど、何か思い当たることがあれば教えていただきたいなというふうに思うんですけども。

○堀田委員

個人的な意見にはなるんですけど、私はいろんな世代が混在した生活出来るような地域が良いのかなと思っていて、やっぱりどうしても高齢者だけのエリアですとか子育て世代だけのエリアってなってしまうとやっぱり元気の差がじゃないですけど、地域の交流の差が生まれてしまったり、世代の特色がすごく出すぎてしまうかなと思っていて、それが混在していると、一人で住まわられる高齢者の方とご近所の若い世代の方が交流して会話が生まれたりですとか、活気が生まれるってことに繋がるなと思っていて、私も今暮らしているのは別の花園町じゃないエリアなんですけど、結構その周辺は小さいお子さんをお持ちのご家族の方もいらっしゃいますし、単身で住まわられる高齢者もいたり、中年のご夫婦が住まわられたりっていう形のエリアに住んでるんですけど、結構近所のコミュニティが少しずつ出来てきて、庭で野菜が取れたから食べるかいってピンポンって来たり。

○副座長 仙石委員

素敵なおコミュニティですね。

○堀田委員

そうですね。そういうのってやっぱり高齢の方も近くにそういうふうに気軽に尋ねられる先があるだけで、少し安心をされると思いますし、そういう暖かい地域になれると子育てされてる世代の方も安心して子ども達を学校に送り出せるのかなと思うので、いろんな世代が交流して、暖かい地

域っていう形に作っていくのが良いんじゃないかなというふうに感じています。

○副座長 仙石委員

僕もすごい共感しました。いろんな多世代の人達が交流することで多様な価値観っていうか、子ども達も学ぶことも出来るし、もちろん大人も、高齢者も刺激を受けながら楽しく生活出来るのかなというふうに思います。

ありがとうございます。高澤委員どうですか。

○高澤委員

聞いてて、はってすることがあって、私も自分が住んでるエリアとは離れた場所で、まちの小さなお店にいらっしゃるおばあちゃんとかに仲良くしてもらって、月に1回くらい会いに行こうみたいな習慣が生まれていたりとか。

○副座長 仙石委員

素敵なお店ですね。楽しみにしてるんじゃないですか、おばあちゃんは。

○高澤委員

そうですね。お互いが楽しみにしてて、私もおばあちゃんの話聞くことでおばあちゃんの笑顔が生まれることが嬉しいし、おばあちゃんもおばあちゃんが握ったおにぎりを私に渡してくれることが楽しみにしてるみたい。お互いがこの場に二人が集うことでやれることってなんだろうっていう、自分の楽しみを見つけてるっていうか、そういうことも起こっているの、しかもその繋がり自体が私のこのまちの良さだと思っているので、多世代でこういうそういうことでまちの良いところ、良さがお互いに分かる瞬間でもあるだろうなって思っていました。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

多世代が交流することで、お互いが、もっと函館が好きになるのかなっていうふうに思いますね。他に何かご意見ある方いらっしゃいますかね。はい、三橋委員。

○三橋委員

私もいろんな世代が重なっていくというのが、いろんな方々が生活する中でやっていくというのはもちろん大賛成なんですけど、これって意外と地域性があるのかなというものがあって、というのは私が昔から親の関係で引っ越しが色々多くてですね。近々では人見町にいたりとか、それからその前西旭岡にいたりとかしたんですね。今は桔梗にいますけど、大きく桔梗に移ってから変わったのは先程言ったように近隣のおじいちゃんおばあちゃんが野菜を持ってきて朝早くに玄関の前にトマト置いてって、朝起きて出ようと、新聞とろうとするとトマト踏んずけてしまうようなくらい大量に置いてあったりなんかするんですね。そのおじいちゃんおばあちゃんと時々会話しながらやってるということはすごい楽しかったり、あっちも何か嬉しそうだったり、そういう世代って面白いなと思いがらいたのですが。

一つ気になったのはですね、この間回覧板みたいなものが回ってきまして、その中を何気なく記事を読んだんですけど、そしたらですね、匿名ではあるんですけど、どう見ても高齢者の方のクレームみたいなことが書いてあって、この頃書いてた記事の内容からすると、夏場だったんですけど、近隣でバーベキューを多くやってると。臭くてどうしようもなないと、何とかならないだろうとか、夜遅くまで騒いでるだとか、どのくらい騒いでるかわかりませんが。とりあえずそのバーベキューの臭いだとか、それがもう嫌で嫌でしょうがないんだと、どうしたら良いでしょうかっていう相談みたいなあれで。町内会の方のアンケートの回答としては、直接言わずに私も副会長なり会長なりに相談していただければ話しますよなんて書いてあったんですけど。何より私が驚いたのは、その多分高齢者だと思うんですけど、その方の寛容さっていうのが無いのかな。今まで

だったら皆さんお互い様って言ったら変なんですけど、うちでバーベキューやりますよ、隣で何やりますよって、多少の夏場だったら、お互い寛容してたじゃないですか。ところが今の世代、高齢者も含めてなのかな分かんないですけど、一部の人にそういうことが寛容出来ない人がいるんだというのが。

○副座長 仙石委員

ちょっと寂しいですよ。

○三橋委員

もちろんいろんな世代が交流することは良いことだと思うんですが、もしかしたらそういう人もいるんだよなっていうのはちょっと意識しなきゃいけないのかなと。ちょっと世の中としてそういう寛容出来ない人が出てきたのかな。いろんな建築とかやっていると、いろんなこと聞いていると、なんかクレームがあったとか公営住宅で工事やっててもどうだとかって、出てくる方がいるんですけど、やっぱりその内容聞いても寛容出来ないことでクレームが来る場合が結構多いですね。今までだったらその程度だったらまあまあ良いでしょうっていうのか、お互い様でしょっていうお話が出来なくなってきちゃってる。時代なのかなというのがちょっと気になる場所ですね。

○副座長 仙石委員

そうですね。なんかちょっと寂しい話で、もうちょっと寛容になっても良いのかなと思いますし、それこそさっき公園の話とかも出てきて、公園で子どもが騒いでる声がうるさいって、公園って子どもが騒ぐ場所なんだけどなって思いながらも、それがデメリットなのかどうなのかな分かんないですけども、その辺も考慮しながらやっていかなきゃいけないっていうのは、ちょっと現実としてはあるのかなっていうふうには思いますね。なんか羨ましく思うのかな。どうなんですかね。寂しいからなのかな。自分も入りたいからもしかしてツンデレなのって思ったりするんですけど。

○三橋委員

それこそ先程言った工事やっていると、例えば公営住宅だとかの工事やっていると、居ながら工事やっていると音がうるさいとかなんとかとか、もめたりする時があるんですけど、そういう時に行くといつと意外と話すとい人だったりするんですよ。

○副座長 仙石委員

どれどれって聞いてくれたりするんですよ。不思議とね。

○三橋委員

ところが、最初に会った時は、すごい苦情を言われて、入ってくるな、近寄るな、何すんだ、工事なんか大反対だとか言われちゃうんですよ。でも話すと意外といやいやそうだったねとか悪かったよなんて。言って。

○副座長 仙石委員

意外とね。やっぱりそうなる地域住民同士の対話をする機会が必要なのかなって思いますね。それこそね、会長さん副会長さんに話してって話も直接町会で行ってその人の気持ちとかを全部聞くと、話すと大体解決する。そういうのもありますよ。

僕もまちづくりセンターじゃなくて、青年センターってところに5年いたんですけど、団体としてはもう20年近く運営してるんですけどね、めちゃくちゃ夜、吹奏楽とかよさこいとかバンバン音出してるんですけど、1回もクレームが無いんですね。それは地域が、若い人達が夜頑張って活動してるんだって応援しよう、そこはもう寛容で、そういう話を時々聞くともうちょっと了見広くなっても良いのかなとか思ったり、或いはその人達のところに行くと町会の活動に理解を示してもらうために、それこそ町会の祭りの券あげたりとか、そういうことでちょっとずつ歩み寄って対応してることが大事になっていって、聞いてて思いました。

ちょっと続けて聞いていきたいんですけども、今混在して暮らす反面、色々そういったデメリットとかも出てくるとは思うんですが、基本みんな住み分けていくっていうよりは、やはり一緒に混ざって住んでいくっていう方が皆さん大事なのかなっていうのはお話を聞いて思ったんですけども、そうした場合に実際はここから掘り下げていきたいんですけど、こういった場所が具体的に適しているかなっていうのをに皆さんにお話を伺いたいんですけど、市街地のこういった場所が良いとか、あと公共交通が発達してるだとか、あとスーパーだったりとか、商業施設が発達してるかとか、そういう話になると思うんですけど、いろんなことを想定しながらそれぞれ皆さんこういった場所で混在して住むには良いかなっていうことをそれぞれお一人ずつ伺ってきたいんですけども。どなたからいこうかな。じゃあ辻さんから。

○辻委員

ちょっとさっきの話の続いている部分もあると思うんですけど、ただ混在して住むか住まないかというのは、逆に決められないのかなと思ってまして、そもそも、その混在しないで住むためにじゃあ何ができるのかって考えた時には、どうなんでしょうね、その若者の住むまち、若者がメインで住むまちとか、あと高齢者がメインで住むまちっていうふうにしていかないと、多分それはできないと思うので、そもそも混在して住むしか方法はないのかなというふうにはまずは思います。で、多分先ほどのクレームとか、近隣のなんとなんかというの、多分どの世代にあっても同じことが多分起こると思うので、多分それを、例えばその、どこに持っていくかとかというのはあまり関係ないのかなと思うので、例えば私ですね、昔、あの、川崎市に住んでたことがあって、で、あと浜松市にも住んでたことがあって、あの二つの都市って、天竜川と多摩川っていう大きな川があるんですよ。で、その川に遊びに行くとか、その、さっきのバーベキューであれば、川に何かしに行くっていうのが、結構こう、皆こう、根強く残ってまして、もしかしたら、その、どこにも行くところがないからとか、まあ夜だったら別かもしれないですけど、そういうところがないから、家でやるのかなっていうのはちょっとあって、もし仮にですけど、函館市でいったら緑の島とか、結構縛りがきついと思うんですよ、緑の島使うには。そこら辺を出来るようにしていくと、そういうのが少しずつ変わっていくのかな。要はどこかに行くところがあると。なので、じゃあどんな地域かと言われると、まあそれはその、これでよく出てくるような美原地区とか、中心地区とか、色々分けているところに、まあ何かその中の一つとして、例えば皆が集まれる地区とかっていうのを作ってしまうといいのかなとは思いました。なので、住む場所はあまりなんか限定しなくてもいいのかな。多分、その地区が好きな人がいたらその周りに住んでいくという、なんかその若干自動的に、住宅というか、住む居住圏が形成されていくという考え方でやっても、一つの考え方として良いんじゃないかなとは思いますが。以上です。

○副座長 仙石委員

はい。ありがとうございます。場所はあまり関係ないこと。

○辻委員

どこかにそれがあるという意味であれば。

○副座長 仙石委員

はい。確かに、なんかちょっとね、こう、規制が厳しかったり、条例で決まっている部分もあるんでしょうけれども、それこそなんか、あんまりこう花火がやれないとかね。バーベキューもそうなんですけど。そういうのがあるのかなというふうにはちょっと聞いてて今思いました。ありがとうございます。

続いては、阿知波委員どうでしょう。

○阿知波委員

まあ話聞いてて、場所どこかって言われても、そうですね。

今までの話を色々お伺いして思ったのが、生活インフラ、すごい大事なので、自然とそこが整っていると、皆さん良いでしょうし、あと、そうですね、おっしゃるように集まる場所とかというのがあれば、きっと皆、あとその、交通のちゃんとセットで来やすいとかっていうことがとてもって言ったら変ですけども。あと若い方って、きっと今、函館は学校が点在している。そこところなんか、関連じゃないですけど、施設施設とか、そういうのがこう、なんか一つ鍵になると言ったら変ですけども、大事なのかなと漠然とそんなことを考えています。

○副座長 仙石委員

大丈夫です。結構こって難しい質問だと思うので大丈夫です。ありがとうございます。

あと渡部委員どうでしょうかね。

○渡部委員

今あの、町内会でもですね、かなり、加入率が少ないんだと聞いてます。えっと48%くらいの加入率って言ってましたかね。まあそういった中でですね、やはり、町内のコミュニティも全く今、成立していなくなってきたという。まあ昔は、先ほどからもお話しあったように、かぼちゃを貰ったり大根貰ったり、そういったコミュニケーションがあったりしましたが、今はだんだんそんな風なものが希薄になってきてしまっていますよね、これをなんとか以前のように、また活気のあるマチに戻すというような動きはなかなか、環境的にも難しいのかなと思いますよね。最近のご自宅の方のセキュリティ対策も進み、誰がこう行っても気軽に家に入れなかったりとか、顔は合わせるんだけど、なんか話しかけてもらえなかったりとかですね、そんなふうで、環境自体が都市型生活になってきているのかなあという気がします。しかし、これを何とか、地域コミュニティをもう1回作り直そうとするならば、何か地域でイベントを多くやって、とにかく幅広い皆さんに出ていただくきっかけをつくり、一歩でも外に出てきて参加してもらおうことだとか、そういったことをやはり心がけていくとかっていうことをしていかないと、地域コミュニティの形成っていうのは、ますます出来なくなっちゃったのではないかと、という気がします。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。

えっと、先ほど説明してもらった資料にも、まちの活性化に繋がるイベントが結構ポイントになっているということなので、町内のコミュニティがこう希薄になっているっていうことから、ちょっと話、ちょっと続けていきたいんですけど、その流れで地域コミュニティのあり方って実際どうかなっていうところをちょっと掘り下げていきたいなというふうに思っています。

まあ、先ほど話があったように町会の話ですけども、多様な人たちが暮らしやすくなるためには、イベントの参加とか、色んな環境活動とかね、町会とかでやってると思うんですけど、実際こう町会に加入してる人もそういうね、あんまり半分くらいっていう、僕はちゃんと加入してますけれども。どうやったらそういうコミュニティがもっと楽しくなるかなっていう。いろんな多世代の人達がこう一体となれるかっていうことをちょっと皆さんから一言ずついただきたいと思うんですけども。どうでしょうかね。若者から。どうだったら町会活動に参加したいと思いませんか？

○高澤委員

そうですね。私は今未来大学の近くの町会さんに、それこそ2か月に1回くらいお邪魔させてもらって、子供たちにどういうイベントを企画したら、町会はもっと身近な存在になるのかみたいな会に、最近、顔を出させていただいたっていう機会もあるので、学生が、より町会自体に身近になるきっかけであったり、町会ってまちにとってどういうものであるべきなんだろうっていうのを、住む、その地域の周辺に住む学生が考える機会っていうのがあれば、何かしらその若者視点でも

と、ちょっとなんか、あ、そういう意見もあるんだみたいな視点でアイデアを出せるんじゃないかなって思っています。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。結構最近、西部地区の方で若い役員が活躍してる町会見聞きしますけれども、なんか元気をもらえるなってふうに思うので、やはりこう、若い人たちとこう、地域の人達がこう、変な距離感で壁をお互い作っちゃってるので、こう、それを取っ払うといいのかなって言うのはお話を聞いてて思いました。

どうでしょう堀田委員。はい。

○堀田委員

そうですね。今おっしゃっていただいたような流れがすごく素敵だなと思っていて、やっぱり若い世代と町会ってすごく遠い存在だと勝手に認識しているような気がして、どうしても年配の方が運営をして、お祭りの会費を集めるのがお仕事だと思っていたり、なんかゴミの収集のゴミ回りをするのがお仕事だというふうななんか認識があって、勝手にこう面倒くさいとかって、なるべくこう遠くいたってというふうな印象がどうしてもあってしまうことによって、若い世代が介入しづらくなってしまっているんじゃないかなと思います。なので、こういったかたちで学生さんが積極的に入って、いやいや若い世代が盛り上げて楽しいことをどんどんやっていくような組織なんだよって印象が広まってくると、少しずつ、若い世代も介入しやすくなってくるのかなと思うので、なんかそういうところのアシストを地域であったり、自治体だったり、まあ教育機関等巻き込んでそういう仕組みづくりが出来てくるとちょっとずつ印象が変わってくるのかなと、今お話を聞いて思いました。

○副座長 仙石委員

若い人たちも参加してもらいやすいこう、敷居を下げるということだと思うんですけど、まあよく、僕が学生時代に大人の活動に参加する時は、お昼ごちそうするよとかね、なんか美味しいお菓子食べれるよとか、ラッピ用意して待ってるからねみたいなね、そういうこう、本当に若い人たちに寄り添って、大人たちが一緒にこの町内を良くしていきたいなっていう意思を伝えることで、その地域自体が変わってくるのかなって言うふうに話を聞いて、はい、思いました。町会がないと本当に成り立たないわけですよ。街灯もつかないですしね。冬の雪かきだって成り立たなかったりするんで、本当に大事な存在だと思うので、いろんな人が関わってやっていくべきかなってふうに思います。

えっと、じゃあ続いてどうしようかな。まだこの件で発言されてない方は、三橋委員どうですか。

○三橋委員

はい。町会の件ですが、今の時代の流れからすると、なかなかもちろん若い世代が入っていくことは大事なことだとは思いますが、じゃあそれがどう変わっていくかっていうことを考えるべきで、それを逆にどう介入して入ってもらえるかっていうことは非常にあるのかなと、先ほど言ってきました町内会じゃないと除雪、それから街灯だとか、そういう問題もありますが、今意外とその力がなかなか今なくなってきたという話も聞きます。それがうちの知り合いの方でも町内会長やってる方とか、うちの近隣の方でも、昔は結構函館市に文句を言うと頑張ってくれたんだけど、今はそういう権限もなかなかなくなってきた、だから町内会は、なかなか、変な話、町内のお祭りをやるための会議、会議っていうか、お話し会っていうか、お茶飲み友達をつくる会みたいな感じになってくると思うので、ここに今これから大きく若い世代の方、もちろんそういう気持ちを持って入る方もたくさんいらっしゃると思うんですが、なかなか大きく変わっていかないのかなという。それよりは、私は町内会っていうシステム自体は、本当に必要なのかなとかちょっといつ

も疑問には思っています。もう少し、逆に言うと、大きな町内会がなく、函館市の大きな集まりみたいなものあって、直接、市の方とお話ができる状態を作ったり、今はもちろん町内会の代表の方が、もちろん会合に出てお話しするんですけど、もちろん町内の代表としてお話しするんですけど、そうなってくると、本当に一部の人たちの色んな考えがあって、ちょっと偏った考え方もするかもわからないですけど、そうじゃなくて、もうちょっと規模で言ってしまうわけじゃないですけど、例えば100人位の人、町民、市民を集めて、で、一斉に一人一人意見を言っていく、それを吸い上げて聞いていくっていう会があってもいいんじゃないかなと私は思います。もちろんそれは、成り立つか成り立たないかというのはいろんなことがありますけども。でもそういう機会があると、そういうことに参加すると、意見言いたい人っていうのは結構いると思うんですね。とりあえず、通る通らないは別にして。そういう会があるっていうことが、意外といいような気がするんですが、それが、もしかしたら良いアイデアがポツンと、もう100回に1回しか出ないかもしれないんですが、出るんじゃないかなと。今だと、町内会という、そのなんかブラックボックスみたいなのを通すことによって、市民の意見とかたちで伝わるんですけど、意外とそこがね。見えない部分というのか。なんか町会長さんの色んな欲とかいろんなことに隠しちゃっているような気がして、今まで通り、例年通りっていう感じになっちゃっているようなちょっと私が気になるところかなと思います。以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。活動がマンネリ化しちゃったりとかそういうこともあると思うんですけど、いろんな人からご意見を収集するっていう点では、こう、それこそ町会に特化したパブリックコメントを募集するとか、そういったことも方法としてあるのかなと、今聞いていて思いました。はい。えっとその他、辻委員どうでしょうか。

○辻委員

はい。えっと、私もちょっと町内会というところには、システム自体どうなのかっていうのを考えたいなと思っています。で、先ほどなんか、学生さんがその入っていくっていうのは、もちろん何か、こう変えてみたらいいんじゃないかとかっていうところの意見はすごく出ると思うんですけど、じゃあ、そもそもじゃあ、その函館市として町内会に何を求めているのかっていうのが、多分浸透していないというか、多分皆が皆違うことを言うはずなんだと思うんですよ。なので、その部分を補填したいからじゃあ例えば町内会作るとか、その部分をやってほしいから町内会、じゃあ逆にやったらそれが市でやれるんだったら町内会いらんのかとか、そういう意見はやっぱりこういう場があった方がいいんじゃないかなと思ってます。まあ実際には見える町内会の活動って、多分その募金だったりとか、あと掃除、ゴミとか、その辺の草刈りとか、まああとはあるところではイベントですよ。その辺りだけを見てしまうと、多分入りたくないって言われる方多分多いと思うんですよ。私たちのほうでも、住宅を考えるお客様が町内会に入ったほうが良いんですかねって、

○副座長 仙石委員

あ、やっぱ聞かれます。

○辻委員

聞かれます聞かれます。はい。で、まあ僕らは一応挨拶周りをする時には、やっぱりその町内会長さんと、あと向こう3軒両隣っていう目に見える、接しているところは行かれた方がいいですよという話はしてますけれども、やっぱり、そういうふうな不安なんだと思うんですよ。結局なんで不安かっていったら、何をしてほしいのか、そこに属して何をするのかっていうのが明確化されていないので、その、何をするのか、なんかこう面倒くさいことになったらやだなみたいなところが先走ってるような気がします。多分、あの学校のPTA活動とか、今PTA活動ですら外注作業が進

んでいるというような話があるくらい、同じ境遇の人達だけが集まってもこれが出来ないというのは、多分今の、今のっていうその一括りにするのは良くないと思うんですけど、そこは良くないのかな。ただ、先ほど言った、その多世代がいろんな人たちが一緒に住むってことで、例えば、その子供、うちも小学生の子供、中学生の子供いるんですけど、例えば帰ってくるときに、あの人はなんとかさんだとか、で、挨拶したよと、そんな程度の話でも結構安全安心っていうところはクリアできると思うんですよ。なので、その、何かをやるよりも前に、その、何かをするのであれば、その部分のその、明確な何か、やりたいことってなんなんだろうっていうの、共有をしていくってことと、多分、多世代と一緒にいるんなところに住めば、自然とコミュニティって出来てくるのかな。多分、そのコミュニティが出来てから町内会に入ってくれた方が、多分、本当に仲良くなれると思うんですよ。なので、その辺りがやんなきゃならないということから、今はじゃあ出来てるのか出来ないのかっていうところを考えていくと、ちょっと難しいのかなと思うので、あの、町内会に対する、何を求められているのかっていうことを共有するのは、すごく大事な事かなと思います。以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。今お話し伺って感じたのは、町会活動の目的の棚卸が必要だなというふうに思いますね。あの、いろんなメリットもあるしデメリットもある。で、えっと、楽しくないと意味がないので、楽しくなさそうだから、多分皆あまり加入率に繋がらなかったりするので、その辺の町会活動自体が、何をすべきだったのかっていうことを、時代に即して、皆さんが、町会、それぞれの地域で違うと思うので、その辺を棚卸しつつ、その町内の人達が楽しく暮らしやすいように、皆さんどうやっていきましょうかっていうのを議論を深めて考えていくのが大事なのかなって、はい。思いました。阿知波委員どうでしょうかね。

○阿知波委員

皆さんの方から、色々あの、町会の活動内容の敷居というか難しさというか、ほんとにその通りだなとか、なかなか難しいところだと思うんですけど、そこからちょっとだけ外れるんですけど、思ってるのが、全てじゃないんですけど、函館は歴史的に町会、組織というのがまあ仰るようにまあ50%切っているんですけども、町会組織がこう、活気、なんかこう、確固たるというか、こう、組織化されて、こう、成り立ってきたっていったらあれですけど、地域が成り立ってきたっていう、歴史的経過があるところ、仕事しながら思ってたんですけども、その中であの、町会館って結構先ほどの公園じゃないですけども、全てにはないですけども、町会館の活動、さっきの話じゃないですけども、何やるかっていうこともある前に、なんか思ってるほどちょっと話聞くと町会館を借りるとか、一般の人が使うのって、それもまた敷居が、意外と高いのかな、それをもっとなんか、いろんな、町会組織に加入してないと借りれないとか、あれなんですけど、なんかそこを町会館をもっと皆使えて、で、こう、それをもっと活用されて、色々な方々が使えて、で、町会に興味持ってもらってとか、まあもう既にやってるところもあると思うんですけど、町会館ってどうなのかなって、その、話の中で、まあちょっと思ったところです。

○副座長 仙石委員

町会館も有効活用するといいいかなと思いますね。そこで貸借収入が入ってきたりとかすると思うので、とはいえ、ちょっと敷居が高いというのもあるとは思いますが、はい、まあ皆も使えるといいですよって話ですよ。

じゃあ、ちょっとその辺皆さんからいただいたので、そろそろまとめというか、はい、いきいたいなというふうに思うんですけども、まあそんな町会なんですけど、人口色々こう減っていく中で、その、コミュニティ自体を維持していく、維持していかなきゃ、いかなくていいじゃんというわけ

にいかないと思うので、じゃあどうしていったらいいかっていうことで、まあ交わるのがいいのか、まあ混在するのがいいのか、まあ別にするのがいいのか、まあどうやっていったらいいかなっていうふうに、こう、すごいふわっとした質問で申し訳ないんですけど、地域コミュニティを、こう、維持していくためには、あの、どうしていく、何が必要かとか、まあ、ていうのをちょっと、皆さんそれぞれ、あの、感想でも結構ですので、お話しいただけないかなというふうに思います。

では、渡部委員お願いいたします。

○渡部委員

そうですね、あの、今、函館市はもう人口が毎年4,000人近くいなくなっている時に、町会自体の、その、運営をしていくというのはかなり限界値が見えてきているんだらうなという気もしております。で、そういう中で、まあ将来、もうこれだ、という処方箋はおそらくなくて、もっと若い人たちにですね、どうやって町会に溶け込んでもらうかだとか、あとその、今の会館のお話もそうですけれども、そういったものをどんどん若い人たちに、何かこうダンスで使っていただくとか、現在の町会の案内を見ると麻雀をやりますとか、なんかカラオケ大会をやりますとかっていうことだけではなくて、やはりそういったものに、どんどんどんどん広げ、いろんな活動の場として使っていただくことで、先ほどお話しがあったように、先に町会の入会を勧めるのではなくて、先に皆さんと仲良くなって、色々こう、気持ちを通じ合うというふうなものに近づけていってから、その地域のコミュニティを形成していくというようなことが、僕もやはり目指すべきところなんじゃないかなというふうに思っております。まあ、この、何が、こう、いいのかって、こう、まあ、数が、かなり人口が減っているところで、何がどう、どうできるのかってのは非常に難しいんだと思うんですけども、やはり、こう、皆さんで地域を守っていくんだっていう心構えさえあれば、まあなんとか、一つでも二つでも、いい案が出てくるんじゃないかなというふうに思います。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。まあ、活動の場としてね、あの、町会を使ってもらおうというのはいいかなってふうに思いますね。結構その僕の知り合いなんかでは、町会館で、吹奏楽の練習したりとか、そういう方もいらっしゃるんで、まあそういう活用の仕方もあるのかなって思いますね。それでね、吹奏楽の練習してたら、うるせえよって言われたら元も子もないんですけども、なんか聞いてるところによるとそんなクレームないみたいで、そこは寛容だなんていうふうに思うんですけどね。はい。ありがとうございます。

続いて、若いお2人から。

○堀田委員

そうですね。高澤委員と一緒に若いと言われるとちょっとうってなってしまうんですけど。

大丈夫ですか。そうですね、コミュニティをどう続けていくかって、すごく難しいなと思っていて、やっぱり人が減る傾向にある中で、きっとコミュニティからもどんどん人が外に出ていってしまう、それがまあ別の地域になるのか、別の県になるのかってところは出てしまいますし、まあ高齢者も増えている中なので、まあ亡くなってしまって、そのコミュニティから属さなくなるというのが流れも絶対生まれてしまうので、コミュニティに属せる、こう、総数といいますか、その地域に、こう、人がちゃんと居なくなったら入ってくるような流れがないと、コミュニティって続かないのかなと思います。で、まあその、人がじゃあ出ていったらそこに入ってくる流れってどうしたらいいのかっていうと、やっぱりどうしても住みやすさ、暮らしやすさってところに帰結するってところがあるので、まあ多世代が暮らしやすくしていくための医療であったり、学校であったり、商業施設だったりってところの充実プラス、まあいろんな世代が暮らしていくので、車だったり、公共交通機関だったり、いろんな選択肢を取って、生活できるエリアの作り方っていうとこ

るが必要になってくるのかなと思います。ちょっと回答にはなっていないんですけど、重要なポイントはやっぱり人の流れを途絶えさせないというところかなと思っています。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。まあ最近よく言う言葉で「関わりしろ」とかねっていう、まああんまりこうかちっと決めるよりは、なんかばふらっとしておいて、入ってこれる余地を作っておくっていうのが大事なのかなというふうに、はい、聞いてて思いました。ありがとうございます。

高澤委員どうでしょうか。

○高澤委員

はい、もう今ちょうど「関わりしろ」と被った意見を。一緒だと思ったのですが。やっぱりコミュニティがある中で、その、入ってきづらいとか、そういう、あの、せっかく集まる場があるのに、入る人が、こう、縛られているみたいな関係性だと、あったとしてもうまく回らないので、その部分はコミュニティ維持のために必要だなと思いますし、あと、入ったとしても、自分の言葉が発言しづらいとか、その、居づらいとか、そういうすごい細かいところなんですけど、自分がここにいていいとか、なんのためにここにいるんだろうっていう意識の部分は、すごいコミュニティにいる中で、すごい一番大事なのかなって思っていました。はい。以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。まあその、入っても発言しづらいとね、せっかく来てくれたのに、あの、発言が一回も出来なかったということもあると思うんですけど、その辺が、こう、自分事として入ってくれた人になると、楽しさが増して関わって続けてくれるのかなっていうふうに思うので、その辺の、こう、なんだろう、うーんと、誰かが行って、プロデュースする人がいるといいのかもしれないですね。そういうこう、ワークショップみたいな。こういう若い人とまあ多世代の人達がこう、溶け合って、やれるような、こう、場回しをするような人がいると、なんかこういう溶け合って発言しやすくなるのかなって今話を聞いてて思いました。ありがとうございます。

で、じゃあ辻委員どうでしょうか。

○辻委員

はい。えっと、先ほどの話に結構重なる部分結構あるかなと思うんですけど、やっぱりその、この、今小中学校統廃合が進みっていう資料あると思うんですけど、やっぱり町会もその統廃合がされるのかなと思います。で、以前は多分町会、まあその、住む町名ごとにある程度その、人数がいたので、そのシステムが成り立ってたと思うんですけど、今成り立っていないのであれば、統廃合というよりは、一緒になってやる、で、それがやっぱり、その、じゃあなんで一緒になってやらなきゃいけないのかっていうところは周知しなきゃいけないなと思います。で、先ほど言った、その、例えば自然とそのコミュニティって出来るんじゃないか、まあ自然とその周りに住むんじゃないのっていうことが、ある程度行われてくると、その地域だからこうしなきゃいけないよね、みたいなのが勝手に生まれて、その、それが一体感になるんじゃないかなっていう性善説の基に進んでいくと、その町会のあり方っていうのが自然と見えてくるのかなっていうのはちょっと感じてます。なので、どうやって維持するのかわかっていわれると、今のままだと多分無理かなと思うので、やっぱりその、今のままだではなく、新しくもう一回整理しようっていうかたちで、あの、始めていかないと、まあ、どうなんだろうかね。理解は得られづらいんじゃないかなというのが自分の意見です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。やはり皆にこう、もう一度対話して、あの、目的を明確化していくのがいいのかなっていうふうに思いました。ありがとうございます。

じゃあ、あと2人なんですけど、どちらからいきますか。

○阿知波委員

あの、まあ、今まで色々お話しを聞いてながらで、まあ、じゃあもう出ると通り、あの、イベント参加、地域まちづくりの参加をして、あの、一番イベント参加っていうのが、高くなって、それはまあ、あの、交流を促進する要素になってるといこともまあ、調査で出て。で、そこには、あの、先ほどの町会館とかじゃないですけど、コンビニ、あとは先ほど、あの、えっと、バーベキューの話とかもありましたけど、場所っていうんですか。その、集まる場みたいなのところっていうのを、どう、意識的になっていったら変なんですけど、今まではきっと、あの、人口が、その、人口減少じゃない時は、各分野、分野じゃないですけど、きっとそれぞれが、それぞれでやってきて、やれたところが。これからの活動も、もうぎゅっと、こう、今まで関わらなかったような方々も一緒になって、その、やってかなければ、成り立たないとすると、そういうなこと、今言った、キーとなるようなイベント参加、で、先ほどの話、はあの、三橋委員おっしゃってたんですけども、クレームの問題とかっていうのを普通によく話したら、話して良い方だったっていうのは、きっと、その、孤独という、孤立、その地域での希薄化っていうのを、僕はなんかあるのかなと、その話聞いてて思って、やっぱり寂しいさとか。なんかそうすると、その、集まる場所とかっていう場と、その、イベントとか、あとじゃあ、今まで関わりがない方々がどうやって、こう、集まってこれるような仕組みあったら変なんですけど、で、それが大きいのか小さいのかもあると思うんですけど、小さいところで言うと、きっと僕たちが、あの、協議会でやってる、そういうサロンづくりなんかもちっとヒントになるのかなっていう、まあ、きっかけになるのかなって気がしています。そこで、多世代交流みたいなのがあって、っていうのが、今日の話の中でちょっと私を感じた部分の1つです。まとまりないですけども以上です。

○副座長 仙石委員

ありがとうございます。色々、普段活動から感じられたこととお話しいただきました。ありがとうございます。

最後じゃあ、三橋委員。はい。

○三橋委員

私の方からは、あの、建築的なことを言いますとですね。あの、なかなか今、一人暮らしの方の孤独死してただとかそういう話があって。建築的な思考としてですね、一つは公営住宅作るときに、今までは南側に向けて居間をつくるという計画をするのが当たり前だったんですが、今は通路に、一般的に使う、皆さんが使う通路に向けて、あえて、居間の部分を向けるという考え方、で、これによって皆さんが無意識に、あ、あそこの家電気が点いている。あそこの家、この頃人の動きがないねとか、そんなコミュニケーションの取り方。別に話すわけじゃないです。話すわけじゃないないんだけど、あそこ灯り点いてる。いやずっともう2、3日点いてる。新聞紙に、新聞溜まっているのが見える。あれおかしいねっていうコミュニケーションの取り方。こういう建築をやる方がいいんじゃないかっていう考え方が、一つあります。で、実際、今福島とかでやったらいいんですが、それは中々上手くいっているという話はちらっと雑誌などを見てると書いてあったりしますが、まあほんとかどうか定かではないんですが、一つの考え方。もうこれって、コミュニケーションの取り方の一つの方法なのかな、一つの町、村っていうコミュニケーションの形態があって、今までは皆さん、方向性としては、明るい方とか、景色の良い方、そっちばかり皆さん見てるけども、そうじゃなくて、まちの真ん中っていうか、中心部分、何が中心か分かりませんが、それに向かって皆見てる。で、そこを無意識に毎日通学したり、会社に行ったりして通って、通勤したりして、そうした時に何気なく会話することはないけども、ああ隣の人こんな人だ、毎朝体操やってる人だとか、そんなコミュニケーションが取れる、でもいいんじゃないかなと。今の時代だったら、逆に、

その方が皆さん気軽なんじゃないかな。ちょっと話しかけるとか、話すってなると、ちょっともう一つ勇気がいるじゃないですか。

○副座長 仙石委員

ちょっと変な人と思われちゃったら困るしね。

○三橋委員

そうじゃなくて、でも、あの人知ってるなっていうのも安心じゃないですか。あんな人なんだとか、こんな人なんだとか、雰囲気髪長い人なんだとか、それくらいでも分かってるだけでも、それもコミュニケーションの一つだと思うんですよ。そういう取り方をできるまちっていうのも一つの、こう、なんて言うのかな。いわゆる小さい形態を、いわゆるたくさん、こういう形態でたくさんあると、なんか一つのまちというか、コミュニケーションのくくりがたくさんあった方がいいのかなというふうに思いました。これが一つの私の考え方なんですけど、まあ、こんなこともいいのかなと思って最後に発言させていただきました。

○副座長 仙石委員

はい。ありがとうございます。えっと、私が今務めてる、まちづくりセンターに色々裏テーマとか心掛けていることは、私の中で計画的偶発性っていう言葉を今ちょっと思い出しました。これ何かって言うと、実は巻き込まれちゃってるみたい。やってる方は、なんか、偶然を装って、実は巻き込むみたい。で、さっきのお話ですけど、新しいコミュニケーションの取り方ですよ。で、一方でそういう取り方もあるし、あとその、緩やかな繋がりがって最近流行ってきてるので、とはいえ、一人じゃ寂しいけれども、強制じゃないけど緩やかに繋がってたいっていう、その、承認欲求みたいのが人間あるので、なんかその辺も加えながら、そういうコミュニティを維持していくことがこれから大切になってくるのかなって、今お話を聞いてて思いました。で、町会自体に、こう、実は最後巻き込まれちゃって、あの、緩やかに繋がってるみたいところが時代の流れに合うのかなっていう風には今日皆さんとお話しして感じたところでございます。

はい。こんな感じでちょうど8時くらいになったので、一旦事務局にお話しをお返ししてもよろしいでしょうか。

皆さん、ありがとうございました。

一旦、議論も終わりでいいですかね。はい。

その他ですね。その他、何かあればってことですけど、今日、最後、言いそびれたなと思ってることあれば。何か。

○辻委員

ひとつだけいいですか。

○副座長 仙石委員

いいですよ。はい。

○辻委員

今の、あの、お話し聞いてて、今色んな市町村とかで、例えば特に札幌とかだと、あの、南幌町っていうところとかで、エコタウンみたいなところ作ってたりとか、あとその前だと、札幌でいうと東区の東雁来っていうところで、そういう、まあエコタウンみたいな、ところのテーマを持ってつくってるっていうのをちょっと思い出して、で、結構その、最近だと、その、北方型住宅とかっていう、なんかその、道が進めてる、ある程度の性能を持った家、みたいなものがあるんですけど、それにかかわらず、さっきの言った、ちょっと緩やかな繋がりの持てるっていうのをテーマにして、なんかそういう小規模の造成なんかをすればいいのかなと。結構その、いろんな今住宅業界、業界では、性能がとか、なんかその、消費者に分かりづらいものっていうのがすごく多くて、まあ、

すごいこう、特化しすぎてる部分あるので、そのコミュニティとか、そういうのを作る、緩やかな造成みたいなのを、推奨していくというのは僕らでは全くできないので、やっぱりそこら辺は、その、函館市さんとかで、そういうのを、その、六区画ですとか十区画ですとか、なんでもいいんですけど、その辺りでここの地区は、緩やかな繋がりを作るのをテーマにしてつくってください。みたいのが出来るといいのかなって、ちょっと、最後聞いて思いましたので、住宅屋だから言ってるわけじゃないですけど、ふと思いましたので、以上です。

○副座長 仙石委員

はい。ありがとうございます。

それでは、えっと、事務局の方から何かありますでしょうか。

○事務局

はい。それでは、本日の会議の内容についてでございますが、市の方でまとめさせていただきまして、次回、第4回懇話会の開催案内と併せて、皆様にお送りしたいと考えております。

また、会議の冒頭で、確認していただきました、第2回市民懇話会の会議録と、事務局で撮影いたしました写真を、近日中に市のホームページにて公開したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

最後に次回、第4回の市民懇話会でございますけれども、日にちが9月27日(金)午後6時30分から、場所はここ、本日と同じですね、市役所本庁舎8階第2会議室で開催したいと考えています。テーマにつきましては、拠点地域間の移動と公共交通のあり方(誰もが安心して移動できるまちづくり)を予定しております。事務局からは、以上でございます。

○副座長 仙石委員

はい。ありがとうございます。じゃあ、次回が9月27日(金)、調整さんで非常に、あの、スムーズに、あ、この日じゃあ丸にしようみたいな、皆丸してるからじゃあみたいな、なるので、あの、そのようにしていただけてほんと効率的で良かったと思います。

次回は公共交通なので、渡部委員大活躍かなと思いますので、座長もそうですね。座長、なんか今日いらっしゃらなかったの、すいません、今日、急遽、僕務めさせていただきました。皆様のおかげをもちまして、円滑に進めることができました。この場をもちましてお礼を申し上げたいと思います。

それでは、以上をもちまして、本日の市民懇話会を終了いたします。

ありがとうございました。

以上